

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290400153		
法人名	有限会社 楽舎		
事業所名	認知症高齢者グループホーム 宇賀の里 楽舎		
所在地	島根県出雲市奥宇賀町23番地10		
自己評価作成日	平成29年2月20日	評価結果市町村受理日	平成29年5月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ワイエム		
所在地	島根県出雲市今市町650		
訪問調査日	平成29年3月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の出来る事、望む事を無理なく行って頂く支援を心掛けている。また、宇賀の里の理念である「愛・家族・絆のかけはしに」と掲げているように、ご面会の時にはゆっくりご家族で過ごせる時間を作るよう心がけている。利用者が安心して暮らしていけるよう、また、ご家族様がここで良かったと言って下さるような支援を心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平田(北山山系)の自然の中で、ゆったりとした時間が流れている印象。内部は木材を多く用いており、広々としているので個々のスペースで居場所ができています。集団管理とならない個々のペースを維持し、生活が単調にならない様に配慮し、できる事を尊重して残存能力の活性化を図っており、調査日にも利用者の笑顔や穏やかな表情が印象的であった。又たまたま家族の訪問もあり、自然体でスタッフが歓迎しており、家族の笑顔も印象的だった。口から食べられる喜びを大切にし、一緒に調理を楽しんだり、参加できない利用者も、視覚、臭覚、聴覚で感じられるように同じ場所で生活が流れている。スタッフも細心の配慮を行いながらも、楽しく時間を共有している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき、毎月の理念も考え、実践へ繋げている	理念でもある「愛、家族、絆のかけはしに」に基づき、毎月の目標もさらに決め、共有を図り生かされている。いつも新たな気持ちで業務していることが窺えた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	音楽療法や行事などでも地域のボランティアの方に声をかけ、日常的に交流できるようにしている	近隣の保育所、小学校や家族、地域の方々と日常的な関わりもち交流を行っている。音楽療法や行事を行う時にも積極的にボランティアの方々にも参加をしてもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉フェスティバルでの啓発事業、取り組みの発表を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様や、そのご家族様、地域のボランティアの方にも参加して頂いている。今年度から社、里合同になったため、より多くのご家族様の声が聞け、サービスに繋げている	利用者、家族、地域のボランティアの方も参加の運営推進会議では実際のサービスの在り方などの説明も行い、意見交換を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の際に困っている事や、分からない事などアドバイスを頂いている	運営推進会議においても避難訓練等のアドバイスや実情等、より深い問題を挙げていって相談を行い、実践に繋がる努力をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを周知徹底し、内部研修も行っている。日中鍵をかけないケアを実践している	内部研修のほかにも日々の生活の中で、気が付いたことをスタッフ同士伝える努力を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行い、周知徹底している。日頃から職員同士注意喚起し、支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修があれば積極的に参加している、それを踏まえて内部研修も行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に丁寧に説明している、改定時には文書や面会時にお知らせしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	平素より利用者様やご家族様が、気軽に話せる雰囲気作りをし、意見要望等を伺っている	手紙を書いた家族への毎月の連絡や、行事、運営推進会議での家族の参加、日々の訪問も歓迎して意見要望を出せる雰囲気作りを心掛けている。また出された意見から日頃への支援へ生かす取り組みも行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送り時や、内部研修だけでなく、いつでも意見を聞ける場を設け、反映させている	スタッフが全員目標をもち、日々支援の共有を図っている。スタッフ間の関係は良好で、個々の支援や対応の悩みや問題も一緒に考え、管理者とスタッフ間も意見を言える関係作りが行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課により個人の努力、実績、勤務状況を評価する場を設け、モチベーション維持向上に努めている。職員も年毎に達成目標を立て常に向上心をもって業務に取り組んでいる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度の内部研修を開いている。また、外部研修も誰でも参加できるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設との交流をはかり、意見交換をし、質の向上を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査でご本人様ご家族様の要望を聞き取り、入居後も日々アセスメントをし、スタッフ同士情報を共有し、より良い支援に繋げられるよう努力している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	小さな事まで気軽に相談して頂きコミュニケーションを図っている。支援方法も密に連絡・説明し信頼関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者・看護師・ケアマネジャー・かかりつけ医と連携し、ご家族のご要望・ご本人の状態を見極めた上でサービスの提案をし、納得されたうえでサービスを利用して頂いている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	炊事・家事でご本人の出来る事を見極め、自分の役割として頂ける様に支援し、スタッフはサポートしつつ見守るように努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月手紙を出して様子をお伝えし、行事のある時は参加して頂ける様に案内している。積極的に参加して頂くことで共に支えられる環境作りに努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	思い出深い所に出掛けたり、電話や面会がしたいとの要望があればいつでもして頂ける環境を整え、友人知人との関係が途切れないよう努めている	馴染みの場所、希望する場所への外出や、友人知人との関係が途絶えないように、積極的に支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係や状態を把握し、一人ひとりが孤立しない様、お互いが支え合える様、座る場所や環境等を整え支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時、亡くなられた時、アルバムを作ってお渡しし、他の施設に移られた際は時々面会に行くようにしている。退所後もいつでも相談にのれるよう体制を整えている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活や毎日の記録からその思いをくみ取り、ご本人とも対話をしてご本人の希望・意向を把握し、ご家族様にも聞きとりをして検討しケアプランを作成している。	日々の会話から思いや暮らし方の意向や希望をくみ取り、意向把握が困難な場合は本人主体で家族からの意見を聞きとり、関るスタッフの中からも検討して、ケアプランを作成している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際、ご家族様から生活歴などを記入いただき、入居者様との会話からどのような人生を送ってこられたのか等把握し、仕草や癖などから生活リズムをくみ取り支援に繋げている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	様子や身体状況等申し送り時に報告し、申し送りノートにも記入して現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時にご本人・ご家族様からのご要望をお聞きし、ケアプランに組み込んでいる。気が付いた事、変化等あればカンファレンスにてスタッフ同士で検討し、新たな計画を立てている。	利用者、家族と話し合い入居後のケアプランを作成。気が付いたことや変化があればさらに検討し、状況に合わせた介護計画をチーム一丸となって作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	プランの長期・短期目標の評価、日々の様子や気づき等毎日カルテに記録して情報を共有し、話し合いの場を設けている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様との外出外泊がいつでも自由に行えるようになってきている。ご家族様が楽舎に泊まれる設備も整っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学校の学習発表会の見学に出掛けたり、季節の行事には近隣の方々に参加して頂き、一緒におはぎや笹巻きを作って食べて楽しんで頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は希望に応じて継続して受診が出来る様ご家族様と協力して通院介助を行い、ご本人・ご家族様の納得して頂ける様支援している。	入居前からのかかりつけ医が継続できるように、家族と協力して行われている。本人や家族が納得できる受診支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックや、日々の利用者様との関わりの中で、変化があればすぐに看護師へ連絡し、指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院にはカンファレンスを行い、本人様・ご家族様が安心して治療を受けられる様努めている。その際医療機関と連絡を取り合い情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態が変わればすぐに説明しご家族、医師、スタッフで話し合いの場をもち、ご本人・ご家族の意向を尊重したケアが行えるようにしている。	本人や家族の意向を十分に聞き取り、医師やスタッフが連携をとり安心して納得がいく終末が迎えられるように随時意思を確認して取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	119シートを作成し、全利用者のバイタル異常値や病歴がすぐに確認できるようにしている。特変時の対応方法の確認やAEDの使用方法も含む救急対応研修も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や自然災害を想定した避難訓練を年2回行い、全スタッフが速やかに避難誘導や連絡が行えるようにしている。連絡網には地域への連絡体制も組み込み、緊急時にはお願いできる体制をとっている	夜間想定訓練を行い、その後スタッフと意見を出し合い、2回目の訓練も行って注意事項や手順を確認。さらに運営推進会議の中で色々な意見や提案を聞いていき準備やシミュレーションを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した対応と排泄や入浴時の羞恥心についても配慮している。ご本人の性格、特徴に合わせたお声掛けをしている。	個々の対応については、十分理解がされており、人格を尊重した支援が行われている。日常の様々な介助場面でも配慮が窺えた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶の時の飲み物や食事会の時など、ご本人の希望を聞き、自己決定出来る様支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調、気分に合わせてご本人の気持ちを尊重した対応をしている。外出が出来る時には少人数でも希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の体調・気分に合わせてお洒落を楽しんで頂ける様支援している。馴染みの美容院へ行ける様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その時の状況に応じて毎食利用者様と一緒に下準備、盛り付けや片付けを行っている。おやつ作りも一緒に行っている	食事は炊事、準備、片付けも利用者職員と一緒にっており、食べる事が楽しいと感じる事のできる支援が行われている。食事は職員も一緒に同テーブルで行っており、会話も弾み、楽しい雰囲気の中での食事だった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月の体重測定を実施。食事量、水分量の把握を行い、その人に合わせた形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、誤嚥性肺炎の予防を含めて口腔ケアを行っている。ご本人の力に応じた介助、支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援B92:C96 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時でのお声掛けの他、一人一人に合ったタイミングでトイレ誘導している。毎日全員の排便状況をチェック表に記入している。	一人ひとりの排便パターンや習慣をよく理解して自立に向けてプライバシーを守る支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎食時・午前午後と5回に分けてしっかり水分を摂って頂いている。毎日バランスの良い食事を提供している。腸の動きが活発になるように毎日「歩け歩け運動」に参加して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望や体調に沿った形で入浴して頂いている。温泉入浴剤や季節によりゆず湯などで季節を感じて頂いている。	個々の事情や体調に沿った入浴が行われている。入浴も楽しみとして行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間ぐっすり眠って頂く為に、日中はなるべくお昼寝以外は起きて活動して頂くように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は誤飲防止のためご本人の目の前で名前・日付を声に出して確認し服薬して頂いている。症状に変化があれば申し送りをしてスタッフ全員で共有・確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の得意な事・好きな事をお聞きし、日常生活の中で身の周りの事や家事等出来る事はどんどんして頂いている。時には皆で風船バレーやゲーム等のレクリエーションで息抜きをして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には希望されれば散歩して頂いている。日常会話の中でどこか行きたい所があれば計画し、ご家族にも案内し、外出に出掛けている。短時間でも季節が感じられる場所へドライブに出掛けている	日々の会話の中からも行きたい場所を聞いて外出を行ったり、ちょっとした買い物等にも誘い出したり、外出の支援は積極的に行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な限り利用者本人も買い物に行き、希望される物を買って頂く様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により電話を利用して頂いている。お手紙を書かれた時は一緒に投函しに行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには季節に合わせた作品を利用者様と作り飾っている。建物自体木造に拘っており、懐かしさや自然を意識して、清潔で適度な明るさの、居心地良い空間作りをしている	共有空間は木造の自然の中で臭いもなく清潔で明るさも自然で心地よい空間が広がっている。壁には利用者で作ったという季節を感じる作品が飾っており、温かい空間が広がっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや所々にソファを設置しており、利用者さんが自由に過ごせる様配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様がご自宅で使い慣れた家具や馴染みのある物をご家族様に持ってきて頂き、使用して頂いている。	観葉植物(家族が持参した)や大切な写真、使い慣れた家具、落ち着いた居室にその人らしい空間ができている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お部屋に大きな時間割やカレンダーを貼り、共用スペースであるトイレ・お風呂へは大きく分かりやすい貼り紙で誘導している。動線上には危険物を置かないよう注意している。		